

Luxman

VACUUM TUBE POWER AMPLIFIER

MQ-88

Owner's Manual

このたびは、ラックスマンMQ-88をお求めいただき、誠にありがとうございます。

NHKが本放送を開始した1925年、錦水堂ラジオ部として創業されたラックスマンは、80年にわたって数多くの製品をオーディオ・ファンや音楽ファンにとどけてまいりました。

いつの時代にあっても、音楽とオーディオを愛する人たちの熱い心は変わりありませんでした。音楽に込められた送り手側の情念を余さず忠実に再現する。

そして、その時の感動の深さと機器への愛着の深さこそがオーディオにとって最高の価値であると私たちは考えます。

縁あって、ラックスマン製品をお選びいただけましたことは、音楽とオーディオに私たちと同じ情熱と価値観を共有できることと理解し、心から嬉しく思っております。

ご使用前にこのオーナーズマニュアルをよくお読みになり、正しくお使いいただくことで本機の性能が十分に発揮され最高のグレードで音楽再生をお楽しみいただけることと思います。

末永く、ご愛用いただけますよう、お願い申し上げます。

目次

使用上の注意	3
各部の名称と用途	4
接続方法	7
接続図	8
MQ-88 ブロックダイアグラム	9
規格	10
アフターサービスと品質保証について	11
修理に出される前に	12

アンプの置き場所について

換気や放熱が十分行われる場所に設置してください。

とくに、直射日光の当たる場所、ストーブのすぐそばなど高温になる場所、湿気の多い場所、ホコリの多い場所などに設置すると、放熱がスムーズでも、故障の原因になることがあります。このような場所への設置は避けてください。

スピーカー接続時の注意

スピーカーシステムを接続するときには、本機のスピーカー端子やスピーカーの入力端子のところで、⊕⊖間がショートすることのないよう十分に注意してください。ショートしたままアンプに大信号が加わると出力回路に大電流が流れ、場合によっては故障の原因になります。

入力機器接続時の注意

本機とプリアンプまたはコントロールアンプを接続するときには、本機の電源スイッチを必ず切っておいてください。本機に電源が入っていると、大きな雑音が発生することがあります。また、本機の入力端子に差し込むピンプラグはしっかりと差し込んでください。プリアンプまたはコントロールアンプの入出力端子に差し込むピンプラグも同様です。ピンプラグのアース側が浮いているとハムなどの雑音が発生し、S/N比が悪化する原因になります。

修理・調整について

修理、調整などが必要なときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービスセンターへご依頼ください。

お手入れについて

お手入れは、市販のクリーニングクロスなどの柔らかい布で拭いてください。汚れがひどいときは、中性洗剤を少量含ませた柔らかい布で汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。なお、ベンジン、シンナーなどの溶剤は、外観を損ねるため使用しないでください。

安全上のご注意



本機は重いので、開梱や持ち運び、設置は必ず2人以上で行ってください。けがの原因となることがあります。

各部の名称と用途

1. 電源スイッチ (POWER)

電源をON/OFFするスイッチです。入出力端子の接続時には必ずこのスイッチをOFFにしてください。電源スイッチをOFFにしてから、再度ONにするときは1分以上時間をおいてください。

2. メータースイッチ (METER SW V1, V2, V3, V4)

各出力管のバイアス電流を確認するためのスイッチです。スイッチを押しているときに、該当する出力管のバイアス電流値がバイアスチェックメーターに表示されます。メータースイッチV1からV4までは、装着されているKT-88のV1からV4までに対応しています。

3. バイアスチェックメーター

メータースイッチを押しているときに、メーターの針が右部の緑の範囲に入っている場合は、該当する出力管のバイアス電流が適正な値になっていることを示します。

4. バイアス調整ボリューム (BIAS V1, V2, V3, V4)

各出力管のバイアス電流を微調整するためのボリュームです。バイアス調整ボリュームV1からV4までは、装着されているKT-88のV1からV4までに対応しています。バイアス電流を調整するときは、音楽の再生を止め、調整する出力管に対応するメータースイッチを押しながら、マイナスインプラーを使用して、メーターの針が右部の緑の範囲に入るよう、ゆっくりとボリュームを回します。

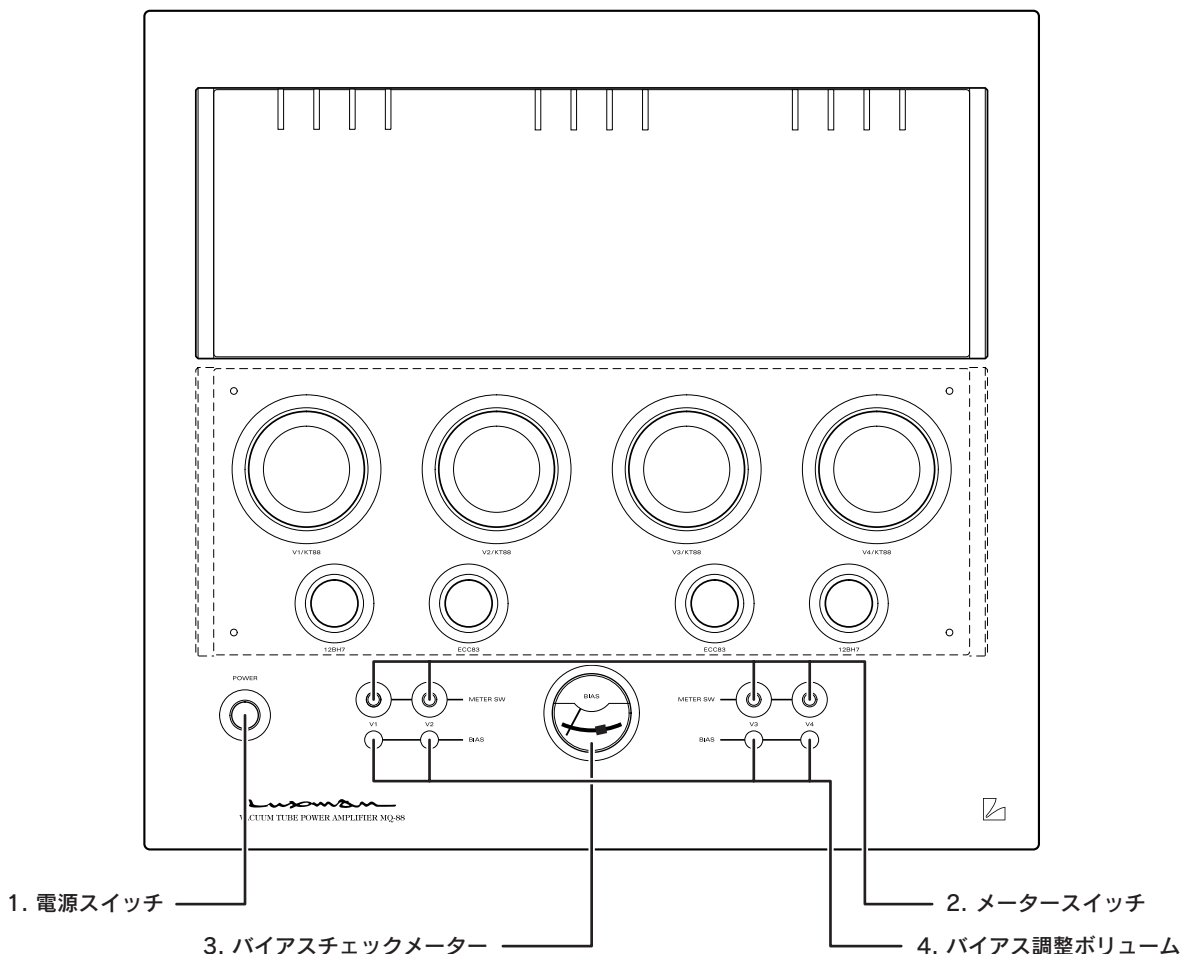
出力管(KT88)

V1 : L 信号回路の出力管 1
V2 : L 信号回路の出力管 2
V3 : R 信号回路の出力管 1
V4 : R 信号回路の出力管 2

メータースイッチを押してバイアス電流値が適正な値になっているときは、バイアス電流の調整を行わないで下さい。

また、バイアス電流の調整中、メーターの針が振り切った状態で動作を継続すると、出力管の寿命を大幅に縮めたり、破損したりしてしまふことがありますので、充分にご注意下さい。

トップパネル部



5. アッテネーター (ATTENUATOR)

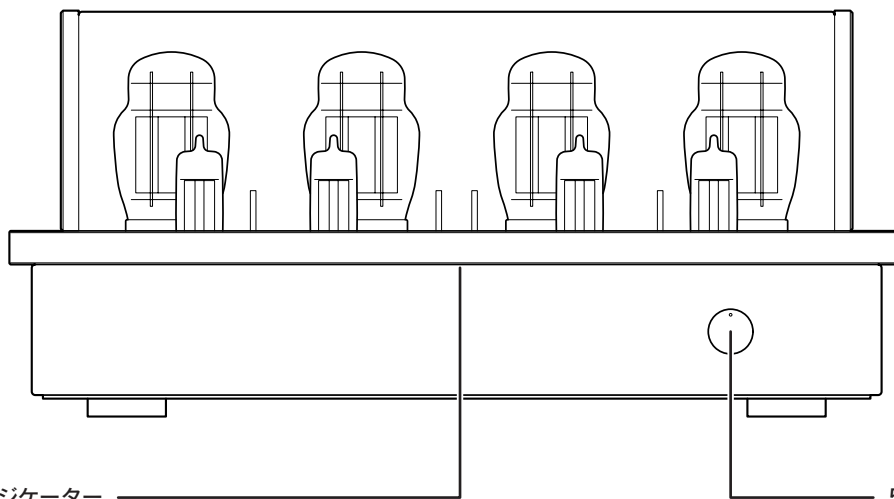
コントロールアンプなどのソース機器を、リアパネルのバリエブル入力端子に接続したときに、パワーアンプ回路への入力レベルを調節するためのボリュームです。

ダイレクト入力端子に接続しているときは、このアッテネーター回路を経由しませんので、音量は変わりません。

6. 電源インジケータ

電源スイッチをONにすると青色に点灯し、本機が通電状態にあることを示します。

フロントパネル部



6. 電源インジケータ

5. アッテネーター

各部の名称と用途

7. シグナル・グラウンド（アース）端子（SIGNAL GROUND）
本機に接続する機器のアース用端子です。この端子は他の機器を接続した場合のノイズ(雑音)の低減をはかるためのものです。安全のためのアースではありません。
8. バリャブル入力端子（VARIABLE）（アッテネーター経由）
コントロールアンプなどのソース機器を接続するための入力端子です。この入力端子に接続したときは、フロントパネルのアッテネーター・ボリュームで音量を調節することができます。
9. ダイレクト入力端子（DIRECT）
コントロールアンプなどのソース機器を接続するための入力端子です。この入力端子に接続したときは、アッテネーター回路を経由しませんので、フロントパネルのアッテネーター・ボリュームを操作しても音量は変わりません。

10. 入力切替スイッチ
バリャブル入力端子とダイレクト入力端子を切替えるためのスイッチです。このスイッチを操作して、再生したい機器の接続されている端子名を選択します。

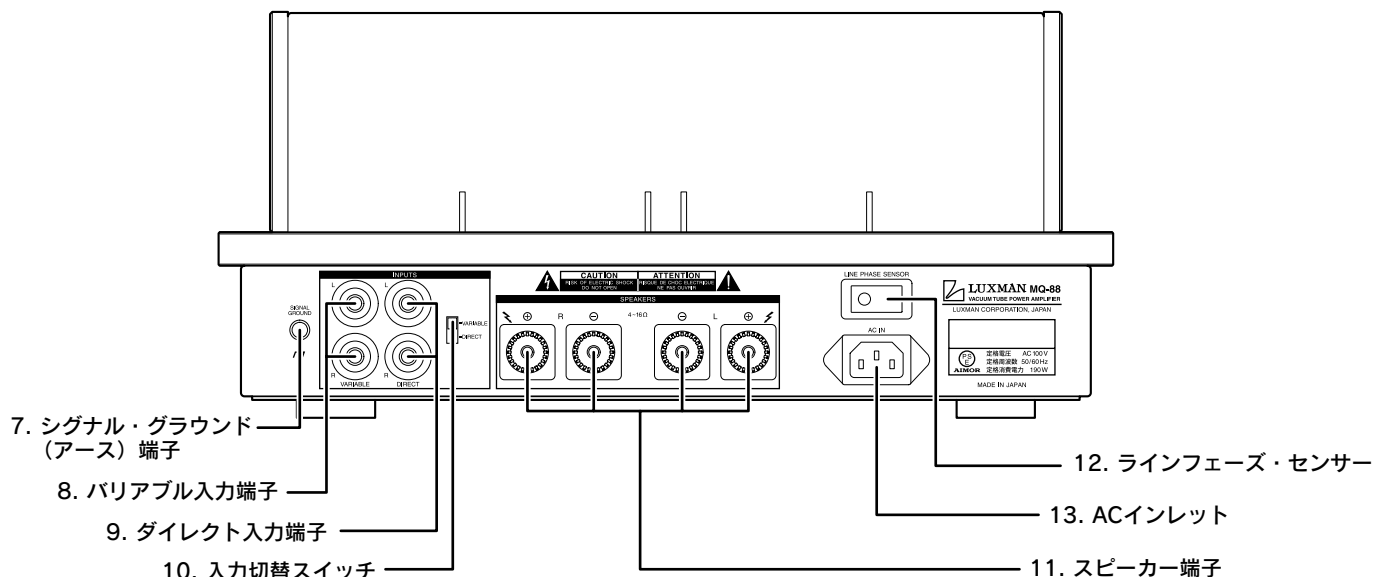
11. スピーカー端子（SPEAKERS）
LEFT 側には、左チャンネル用スピーカーの⊕、⊖ 端子を接続し、RIGHT 側には、右チャンネル用スピーカーの⊕、⊖ 端子を接続します。
接続するスピーカーのインピーダンスは 4 ~ 16Ω の範囲でご使用ください。

12. ライン・フェーズセンサー（LINE PHASE SENSOR）
電源ケーブルを AC コンセントに差し込む時に、電源の極性を確認するセンサーとインジケータです。電源ケーブルを AC コンセントに差し込んだ後に指でセンサーに触れ、インジケータが消えたままであれば正常な極性です。インジケータが点灯する場合は、電源プラグのコンセントへの差し込みを逆にしてください。

電源極性のチェックは他の機器との接続前に行ってください。マンションなど、電源がフローティングされている場合は、極性が変化しないこともあります。この場合は、どちらの方向でもかまいません。

13. AC インレット（AC IN）
付属の電源ケーブルを接続します。電源は AC100V 家庭用コンセントを使用してください。

リアパネル部



接続する前に

他の機器を接続する前に、付属の電源ケーブルのプラグ側（穴が3つある方）を本機のACインレットに接続してください。

電源の接続

付属の電源ケーブルを使用し、ACプラグをリスニングルームなどにあるAC100Vのコンセントに差し込んでください。電源ケーブルを差し込む時には、ラインフェーズ・センサーを指先で軽く触れ、インジケータが消える方向に差し込んでください。（マンションなどのコンセントではACプラグを差し替えても点灯したまま、消えたままのことがあります。この場合、どちらの方向でもかまいません。）

スピーカーの接続

本機のLEFT SPEAKER端子に左チャンネル用のスピーカーを、RIGHT SPEAKER端子に右チャンネル用のスピーカーを接続してください。

一般型の端子には赤（⊕側）、黒（⊖側）があり、スピーカーシステムの⊕端子を本機のスピーカー端子の赤（⊕側）端子に、スピーカーシステムの⊖端子を本機のスピーカー端子の黒（⊖側）端子に、確実に接続してください。

このとき、左右スピーカーシステムの一方だけの⊕端子、⊖端子を逆に接続すると、左右のスピーカーシステムから再生される音波の位相が逆になり、低音が減少したり、音の定位が悪くなるなどの状況が生じ、正常なステレオ再生ができなくなります。

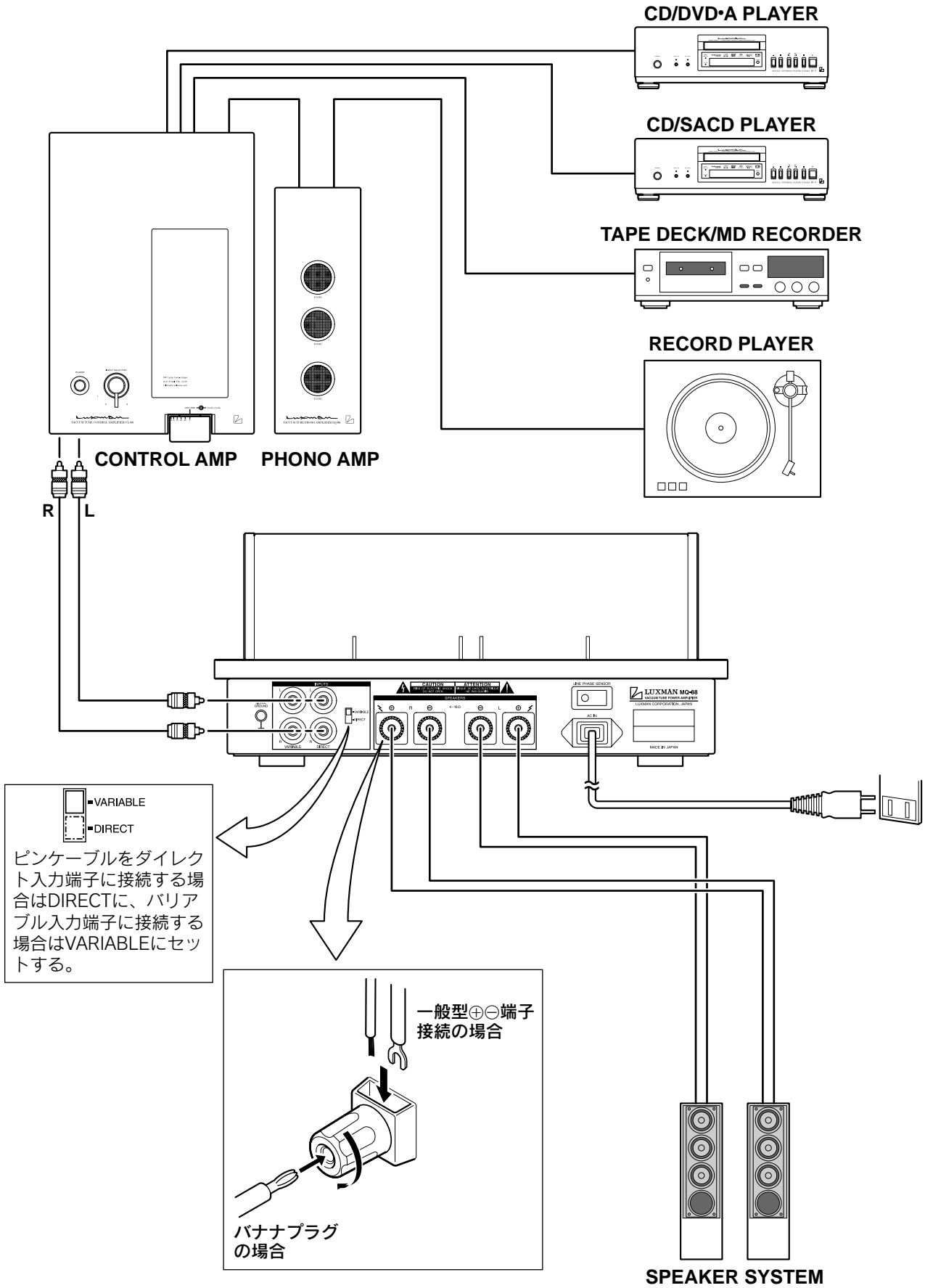
入力端子とコントロールアンプの接続

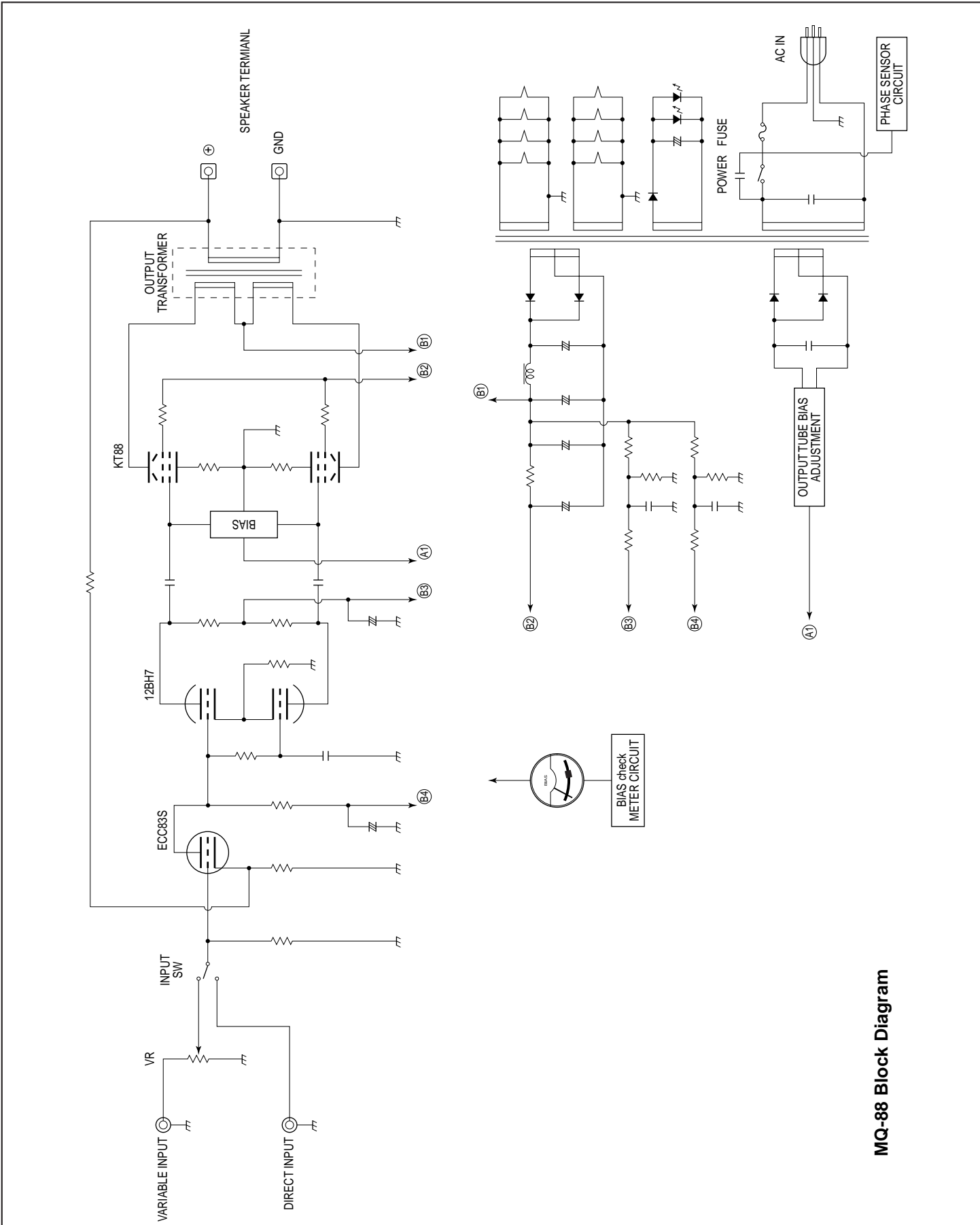
コントロールアンプの出力端子と本機の入力端子との間を、ピンケーブルで接続してください。

この時、左右チャンネルを逆に接続しないように注意してください。

ピンケーブルで接続する場合、出力インピーダンスが十分に低いコントロールアンプを本機に組み合わせる時は、このピンケーブルの長さを気にする必要はありませんが、出力インピーダンスの高いコントロールアンプを本機と組み合わせて使用する時には、不必要な高域の減衰を避けるために、できるだけ短いピンケーブルをお使いになることをおすすめします。

接続図





MQ-88 Block Diagram

規 格

定格出力	40W + 40W (4Ω)	
	50W + 50W (6Ω)	
	40W + 40W (8Ω)	
入力感度/インピーダンス	420mV/100kΩ	
全高調波歪	1kHz (定格)	1.5%
周波数特性	10Hz ~ 90kHz	+0, -3dB
S/N 比	1kHz (IHF-A)	101dB
入力	コアキシャル	2系統 (うちダイレクト入力1系統)
出力	スピーカー端子	1系統
本体機能	電源スイッチ 電源インジケーター 入力レベル調整ボリューム バイアス電流調整ボリューム×4 バイアス監視メーター ラインフェーズ・センサー 信号グランド端子 AC インレット	
使用真空管	出力管	KT88 × 4本
	初段	ECC83S × 2本
	ドライバー段	12BH7A × 2本
回路方式	ムラードタイプ	
音質パーツ	金メッキ4N無酸素銅単線 ビタミンQオイル含浸チューブラ型コンデンサー 金メッキタイトソケット OY36サイズのコアを使用した大型出力トランス 15mm厚アルミトップパネル使用の免震構造	
消費電力	190W (電気用品安全法による規定)	
電源電圧	AC 100V (50/60Hz)	
最大外形寸法	400 (W) × 186 (H) × 397 (D) mm	
重量	25.1kg (NET)	

※規格および外観は予告なく変更することがあります。

ラックスマンのオーディオ製品には、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで、数多くの厳しいチェックを施し、万全の品質管理を期していますが、万一本機が故障したときは弊社サービスセンターまたはお求めの専門店までご連絡ください。状況に応じた出張修理または持ち込み修理をさせていただきます。なお、遠隔地の場合は修理品のご送付をお願いすることもあります。ご容赦ください。

ラックスマン製品の保証期間は購入日より起算して2年間（ただし、真空管などの消耗品は1年間）です。この期間中に発生した自然故障は一切弊社の責任において無料修理させていただきます。保証登録書は、本機のパッキングケース内に入っていますので、お買い上げの販売店で、販売年月日、店名の記入捺印を受けた上、弊社に送付してください。保証期間内の修理お申しつけの節は必ず弊社発行の保証書を添えてください。保証期間外、保証書がない場合の修理については実費でお引き受けします。

ラックスマン株式会社

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜1-3-1

AG00987C20A

修理に出される前に

ご使用中に、何らかの原因で故障と間違えることがあります。修理に出される前に下記表、および併用機器の取扱説明書をご覧ください。故障の原因がわからない場合は、お買い上げの販売店、もしくは弊社サービスセンターへお問い合わせください。なお、修理の依頼をお受けした場合は、故障でなくとも点検代、出張費等を戴くことがあります。

症 状	原 因	対 策
電源スイッチを押しても電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> ・電源プラグがコンセントから外れているか、確実に差し込まれていない。 ・電源プラグがACインレットから外れているか、確実に差し込まれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電源プラグをコンセントへ確実に差し込む。 ・電源プラグをACインレットへ確実に差し込む。
電源は入るが左右チャンネルとも音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・アッテネーターの設定、入力が合っていない。 ・アッテネーターが絞りが切られている。 ・接続が確実に行われていない。 ・コントロールアンプの入力セレクターが合っていない。 ・コントロールアンプのボリューム・コントロールが絞りが切られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アッテネーターをセットし直す。 ・アッテネーターを調節する。 ・接続を確実に行う。 ・コントロールアンプの入力セレクターをセットし直す。 ・コントロールアンプのボリューム・コントロールを調節する。
片側だけ音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・片側だけ接続が不完全。 ・コントロールアンプのバランス・ボリュームが、片側に絞りが切られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接続を確実に行う。 ・コントロールアンプのバランス・ボリュームを調節する。
ハム音（ブーン、またはジーというノイズ）が出る。	<ul style="list-style-type: none"> ・接続ケーブルのアース側が接触していない。 ・他機器の電源トランスから誘導ノイズを受けている。 ・スピーカーケーブルと電源ケーブルが接近しすぎている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接続を確実に行う。 ・他機器から離して設置する。 ・スピーカーケーブルと電源ケーブルを離す。

MEMO

